

(1) 基本的な考え方

大阪府における医療実態を可視化し、
すべての関係医療機関の参画による協議を行い、
高い納得性のもと医療機関の自主的な取組みをサポート

STEP 1
病床機能報告制度と、
構想の病床 4 機能区分の
定義が必ずしも一致しないため、
将来必要となる病床の検討にあたり、
診療実態を分析・徹底した見える化

(平成30年 春～夏)

STEP 3
構想区域における
「将来のあるべき姿」をとりまとめ

STEP 2
「あるべき姿」の実現に向け
達成度を測定する指標の設定

(平成30年 秋～冬)

すべての関係医療機関参画による分析・協議

(平成30年 夏～秋)

診療報酬改定の状況や診療実態の詳細な分析を踏まえ、
将来のあるべき姿に対しての「地域の課題」について、
公・民分け隔てなく関係者間で認識の共有を図る

「病床機能」×「診療機能」

- ・「回復期」(サブアキュート・ポストアキュート機能)を持つ病床機能等
- ・地域で必要となる診療機能 (5 疾病 4 事業)

2025年の
あるべき姿

● 指標 (例)

次年度以降、進捗状況を把握
(モニタリング)

- ・回復期機能を担う病床の割合

(2) 大阪アプローチのポイント

「大阪の、大阪による、大阪のための構想推進」をめざす取組み

ポイント1 公民イコールフットイング

民間病院割合が高い大阪府にあっては、**公民一体となった協議**が必須

① 病院の将来プランについての調査

「公的医療機関等2025プラン」を契機に、公立病院、民間病院について同じ内容の調査を実施

構想区域で協議することを前提に、病院からの回答内容が比較検討等に資するよう、自由記載ではなく、データ化に適した**クローズドクエスチョン方式(大阪独自様式)**を採用

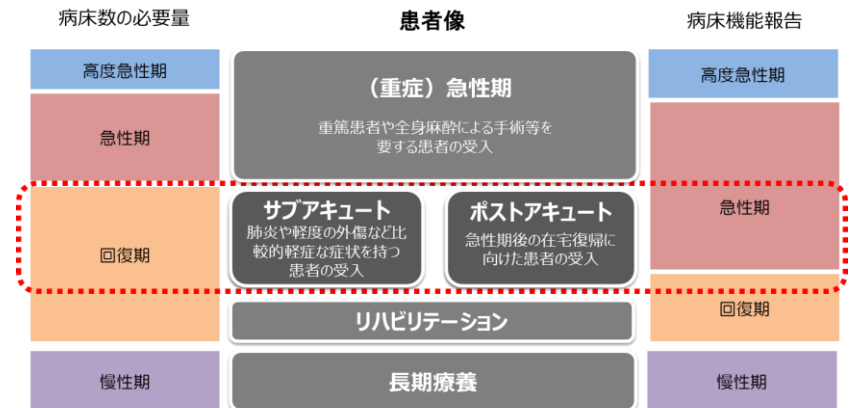
② 病院連絡会

病院関係者の参加率が低い(府域全体で10%程度)の地域医療構想調整会議を実質的に補完する、**すべての病床機能報告対象病院の参画による協議の場**

↓
構想区域の現状と課題を共有し、
将来のあるべき姿を協議

ポイント2 診療実態分析(病床機能報告の定量的分析)

定義の違いの中に活路を見出す



将来像

← ギャップを埋める →

現状

↓
診療実態分析により、「急性期」報告病棟の実像を明らかに

第7次大阪府医療計画に記載し、基本的方向性を確認
関係者の理解・協力のもと、今年度、精力的に協議

(3) 将来必要と推計される「回復期機能病床」の割合

病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、府域全体で約8%程度同機能への転換が必要と推計

● 病床機能報告（2017年度）と病床数の必要量（2025年）との比較

単位：床

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	合計	【備考】 未報告等	
			(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期						
病床機能報告(病床数)	2017	13,080	41,098	28,788	1,093	11,217	8,890	25,089	773	88,930	155
病床機能報告(割合)	2017	14.7%	33.6%	1.2%	12.6%	10.0%	28.2%	0.9%	100.0%		
病床数の必要量(割合)	2025	11.6%	34.5%			30.9%	22.9%		100.0%		
【参考】病床数の必要量(2017年度報告病床数に対する病床数)	2025	10,332	30,715			27,487	20,397		88,930		
【参考】病床数の必要量(2013年の需要をベースとした病床数)	2025	11,789	35,047			31,364	23,274		101,474		

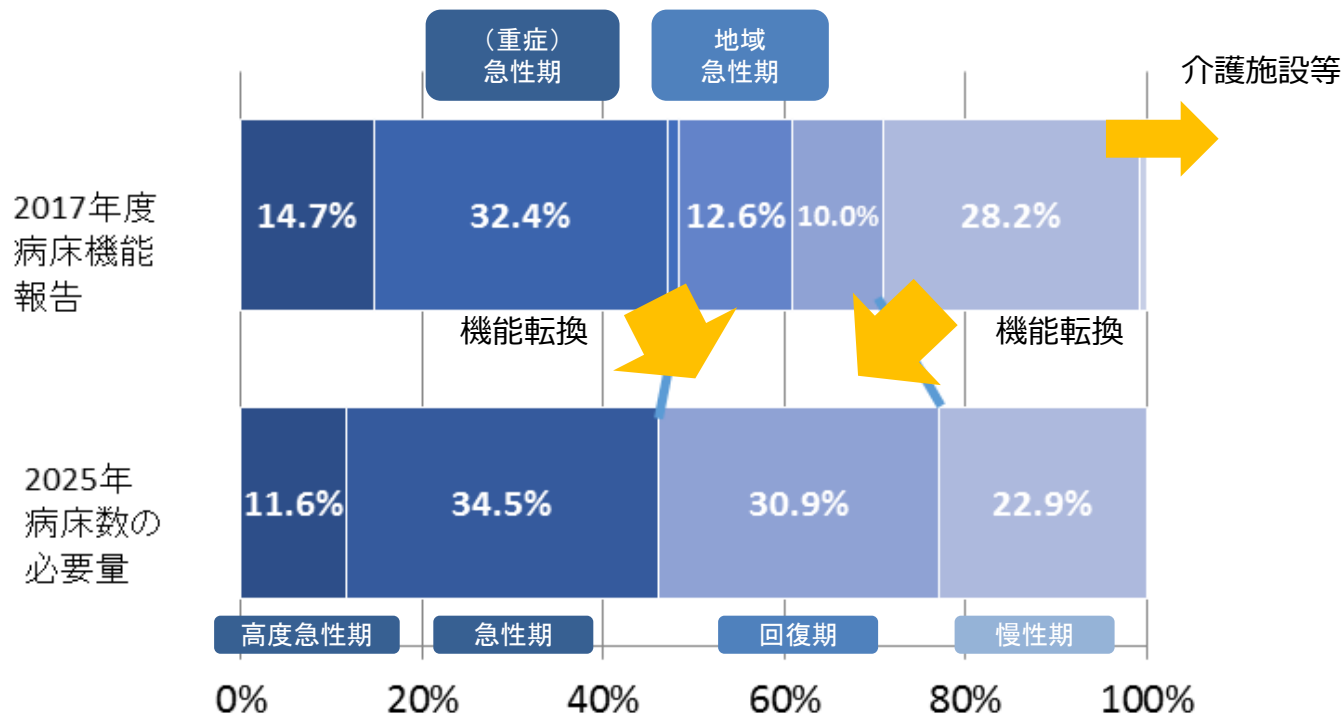
病床機能報告(地域急性期+回復期)と病床数の必要量(回復期)の割合の差
8.3%

【参考】将来に向けて回復期への転換が必要な病床

88,930 (2017年度報告病床数総計) × 8.3% = 約7,400床

(4) 「回復期機能病床」転換への支援

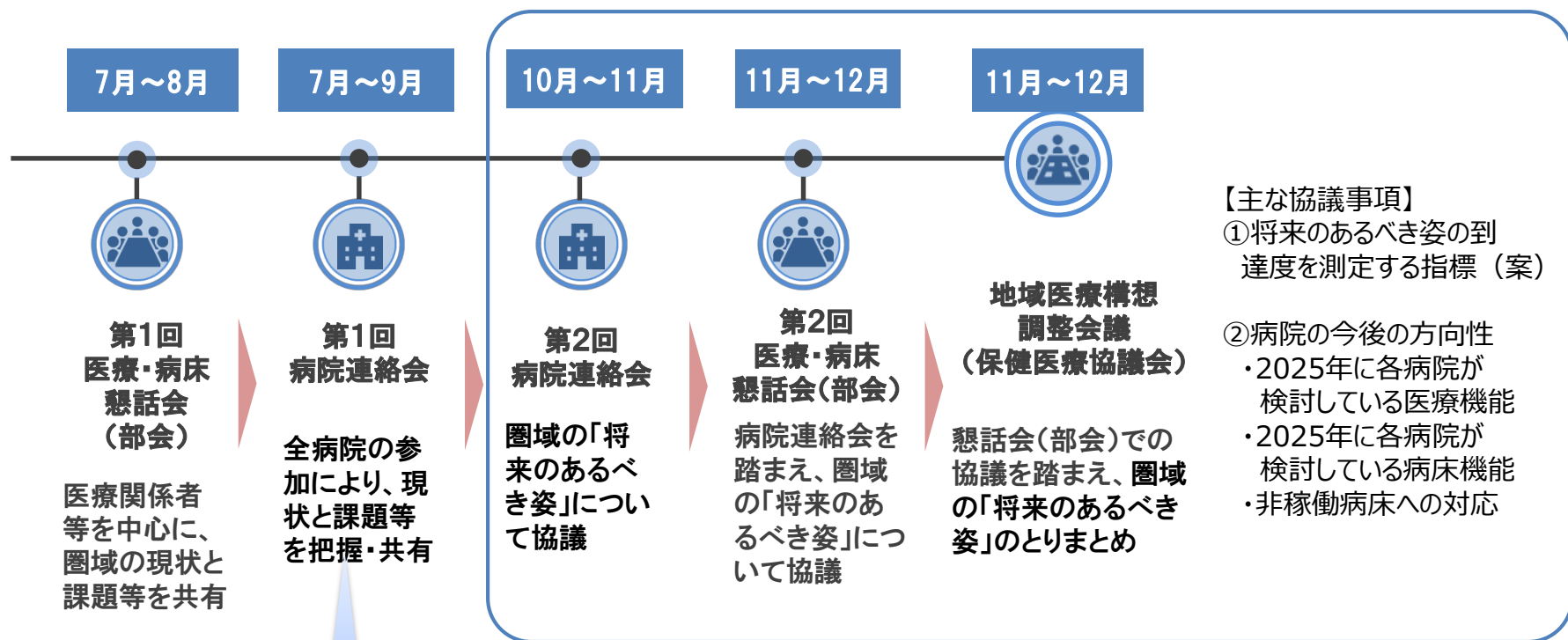
引き続き、病床機能転換促進事業等を実施し、回復期機能への転換を検討している医療機関を支援する。



○療養病床の介護施設への転換により、既存病床数が変動し、「病床機能報告病床数」と「病床数の必要量における病床数」が変動するため、療養病床の介護施設への転換の動向にも留意し、病床機能分化を進めていく。

(5) 2018年度 スケジュール

保健医療協議会に向け、関係者と将来のあるべき姿、病院の今後の方向性について、認識の共有を図っていく。



第1回病院連絡会の病院の参加状況(速報値)

豊能	43/47病院 (参加率91.5%)	南河内	32/34病院 (参加率94.1%)
三島	33/33病院 (参加率100%)	堺市	34/39病院 (参加率87.2%)
北河内	54/58病院 (参加率93.1%)	泉州	59/63病院 (参加率93.7%)
中河内	30/34病院 (参加率88.2%)	大阪市	123/175病院 (参加率70.2%)